

# 開放型を魁ける鶴見大学歯学部附属病院

鶴見大学歯学部附属病院長

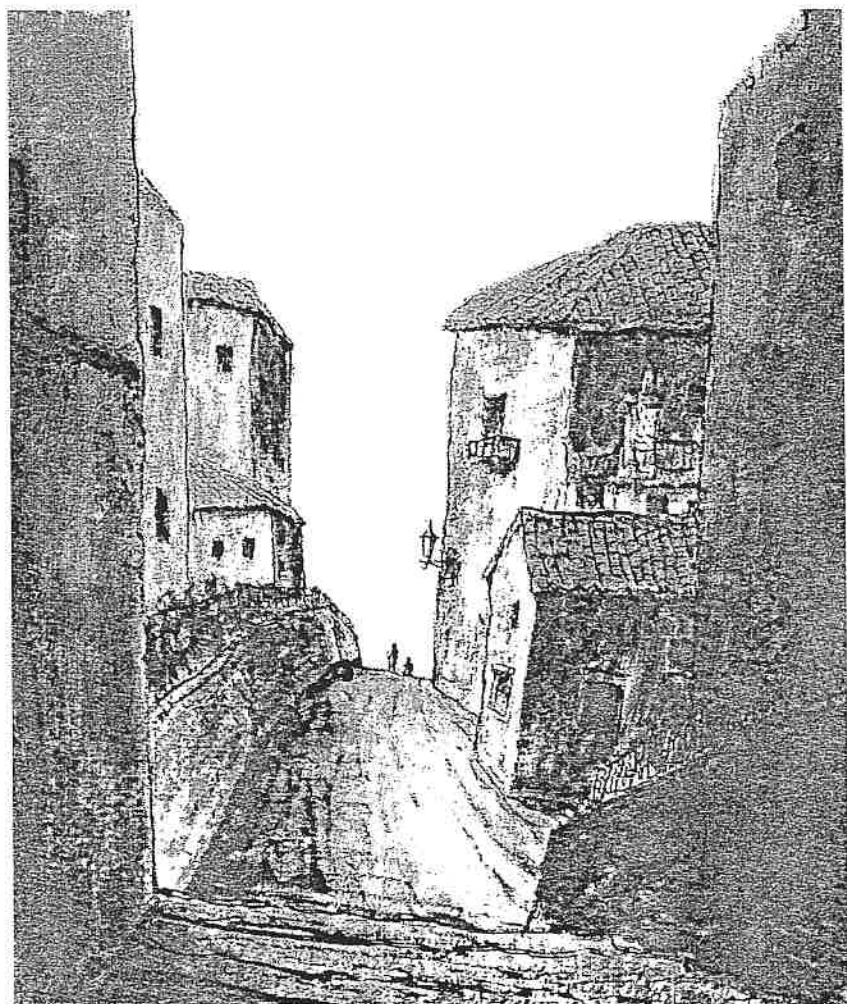
瀬戸皖一

本年三月、鶴見大学歯学部附属病院は「開放

型病院」として生まれ変わりました。開放型とは地域の医師あるいは歯科医師が大学病院に登録すれば、自由に院内に入り病院のスタッフと協同して診療することができると新しいスタイルを意味します。このようなシステムはアメリカでは一般的ですが、我が国では医科の方でもなかなか定着しておりませんでした。最近になって俄に注目されるようになり、神奈川県でも少しずつ増えつつあります。歯科では全く前例が

なく当院が全国で最初です。

当病院は紹介率六三％に達しました。これは全国の歯学部附属病院の中でも断トツで、典型的な二次三次医療機関として、地域の医科や歯科の先生から信頼をいただいている証しです。そのような背景があったからこそ、病院を開放して病診連携を一層深めることができたのです。ひとくちに歯科と言ってもむし歯や歯周病を治す保存科、入れ歯や冠を作る補綴科、歯並びを治す矯正科、子供の歯を治す小児歯科、高齢





者の歯科などいくつかの診療科に分かれております。放射線科には最新のCT、MRIなどの画像機器が完備され、これらを地域の先生方が利用するのも勿論OKです。口や顎の炎症や悪性腫瘍など様々な病気を治す口腔外科では、先端的な手術が毎日行われ、入院患者さんも大勢おられます。口腔外科の手術に全身麻酔をかけるのは歯科麻酔科で歯科医療の際の全身管理を担当しております。

つい最近まで人生五十年であったのが、日本人の寿命が僅かの間に三十年も延びたわけですから、歯科を訪れる患者さんも高齢化し、また多かれ少なかれ様々な生活習慣病を持っておられます。このような患者さんにストレスがかかる歯科治療を安全に、また快適に行うためには

周到な除痛と全身管理が必要となります。

このような場合地域の歯医者さんは大学病院に全身管理を依頼し、ここで自ら歯の治療ができるのが開放型の仕組みです。本年四月からは内科および循環器科がオープンし、どなたでも高度な内科医療も受けることができるようになりました。つまり歯科病院ではありませんが、最先端の医療サポートを重視し、医療と歯科医療ががっちりと手を組んで、社会のニーズに十分応えられるように次々と改革を断行して参ります。このような充実した歯科医療体制をバックに身体障害者、高齢者の歯科医療の後方支援活動も積極的に行なっています。

皆様、一度總持寺の前にある緑に包まれた鶴見大学歯学部附属病院を訪れて下さい。そして新しい時代の歯科病院作りを推進しているスタッフの活気を感じ取って下されば幸いです。